

学生相談室は、学生生活に関わることならどんなことでも相談できる機関です。学生数約三〇〇〇人のうち、年間四%、つまり一二〇人ほどの学生が利用しています。

学生の友達づきあいの話を聞いていると、その場が楽しげであるか、波立っていないか、そして自分が雰囲気壊していないか、ということをとんでも気にするようになっていくと感じます。「空気を読む」ことに価値が置かれるようになった頃からでしょうか。

学 生 相 談 室

だ よ り 78

カウンセラー 奥野 光

友達との関係についての悩みは昔からあり、今でもあります。それに加えて、学生は「場」を気にしています。自分の言動が場をしらけさせたのでは、自分がそこにいることで場の雰囲気を悪くしているのでは、などと悩むのです。

その場は楽しいけれど大事なことは話していない、その場の「空気」に合わせて無理にでもテンションを上げている、一緒にいるのにお互いのことをよく知らない、あるいは親しくはない、そんなことが起こっています。友達は自分で選

べるし選んでいいはずですが、「おつきあい」を続けることに結構なエネルギーを費やしているようです。そんな関係なので、休みの日にまでわざわざ一緒にいたくないと言います。

もちろん、場面や相手に配慮したコミュニケーションは重要です。でも、自分をないがしろにして、取り繕ってつきあうばかりだはどうでしょうか。私たちがだって、おつきあいの後、家に帰るとどつと疲れが出たりしませんか。いい顔をしすぎると陰で愚痴を言いたくなりませんか。

もし、相手を尊重しながら自分を出せるなら、多少雨が降っても結果的に地が固まるような関係が持てるなら、人生はもつと豊かになります。「おつきあい」のスキルは社会に出た時に思う存分発揮するとして、友達と過ごせる今だからこそ、それが自分らしく、そして心地よくいられる関係を育ててみてほしいと願っています。